

# くまもと夢への架け橋ネットワーク構想

## 目的

- ・「教科・科目充実型」の遠隔授業、学校間連携の運営体制、地域との協働を通じて
- 「多様な学びの中で、地方の資源を発掘し、活かし、伸ばす人材の育成」や、
- 「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現する。

## 現状

- 熊本市内への人口一極集中  
(県民の約40%が熊本市民)

→地域の活力低下  
→若年層人材の流出

- 地方で学ぶ強みを理解しながら新たな資源を発掘し、生かしたり、新たな魅力や価値を創造できる人材育成が求められている。

## 1. 遠隔事業に関する取組の概要

- ・ネットワークを構成する学校や県立教育センター及び県内の指導教諭(スーパーティーチャー)が配置されている学校同士を結んだ遠隔授業の実施を行う  
...習熟度授業、発展的科目、専門教科科目、実技系科目の試み等
- ・県内(熊本、阿蘇、天草、人吉球磨)を一体化した地域課題解決のための探究活動(くまモン(熊本の人)プロジェクト)の実施。KSH(熊本スーパーハイスクール)とのリンクによる、探究活動の充実。



## 2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- ・コンソーシアムと学校運営協議会を一体化した、地域の拠点としての高等学校づくり。
- ・熊本地震、令和2年7月豪雨等の経験を生かした「有事の際でも子どもたちの学びを止めない」取組(遠隔授業や地域のコンソーシアムを防災的視点からも捉える取組、連絡協議会やコンソーシアムに防災関連組織を加える試み)  
→新たなモデルとして全国に発信する



## 3. ネットワークを構成する学校

熊本県立第一高等学校、熊本県立小国高等学校、熊本県立牛深高等学校、熊本県立球磨中央高等学校、熊本県立教育センター

# くまもと夢への架け橋ネットワーク構想



## 育成を目指す資質・能力

- ・地域課題等の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、学びの意義や価値を理解するようにする。
- ・地域社会や地域の生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ・地域課題解決に向けた取組に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

## 主なアウトプット(活動目標)

- ・難関大学志望者の育成や生徒が切磋琢磨する環境づくり、教員の指導力向上を目指した指導教諭（スーパーティーチャー）による発展的授業や生徒の興味関心の伸長や学校を超えた切磋琢磨する環境づくりを目指した実技科目における遠隔授業を実施する。
- ・4つの自治体とコンソーシアムを組織し、地域との協働を推進する。
- ・各コンソーシアムでは、年間5回の委員会を開催し、高等学校を知の拠点として、地域課題の解決に向けた取組を推進する。
- ・C I Oにより、県内全域に遠隔授業の普及を図る。

## 主なアウトカム(成果目標)

- ・ネットワーク構成校の生徒の学力向上を図る。
- ・地域課題の解決に資する探究的な科目を構成校で導入し、地域の中核を担う人材を育成する（学校設定科目も創設、発信する）。
- ・構成校をモデルとして、令和5年度までに20の県立高校においてコンソーシアムを創設し、地域との協働体制の強化を図る。

## 委託期間終了後の見通し

- ・構成校を核として、遠隔授業を全県的に拡充する。その際は大規模校から配信するだけでなく、様々な高校の強みを活かして配信、受信する「相互送受信」のシステムや配信センターの構築を模索する。